

令和4年度 県人会担い手育成事業(招へい) 報告書

期間/令和5年1月14日(土)~24日(火)



主催/福岡県

実施/公益財団法人福岡県国際交流センター

目次

・ 概要	1
・ 参加者名簿	2～3
・ 全体プログラム日程	4
・ プログラム内容	5～12
・ 参加者等の感想	13
・ 参加者レポート／子弟	14～25
・ 参加者レポート／青年リーダー	26～31
・ 参加者レポート／福岡県移住者子弟留学生	32～34

概 要

1 目的

海外福岡県人会会員の子弟を福岡県へ招へいし、様々な体験を通じ、福岡・日本に対する関心や興味を高め理解を促すことにより、今後の県人会活動の一翼を担い、福岡・日本との交流の核となる後継者を育成すること、併せて県人会の活性化を図ること。

2 期間

令和5年1月14日（土）～24日（火）

3 招へい者人数

8か国22名 【内 訳】 子弟14名、青年リーダー8名

国 名	子弟者数	青年リーダー数
ブラジル連邦共和国	3	1
パラグアイ共和国	1	1
コロンビア共和国	2	1
ペルー共和国	1	1
メキシコ合衆国	2	1
アルゼンチン共和国	1	1
アメリカ合衆国	2	1
カナダ	2	1
合 計	14	8

4 実施項目・内容

(1) 同年代の子どもたちとの交流

小学校交流（宗像市、北九州市）・宗像市小学生との交流事業

(2) 福岡の魅力に触れる

福岡県内視察

(3) ルーツを探る

親戚宅、知人宅、家族会会員、ボランティア宅へのホームステイ

(4) 日本文化の体験

餅つき体験 等

5 主催／福岡県

実施／公益財団法人福岡県国際交流センター

共催／宗像市

参加者名簿

【参加者】 8か国9県人会から子弟14名、青年リーダー8名が参加しました。

No.	県人会名	子弟 リーダー	氏名	性別	国名
1	ブラジル福岡県人会	子弟	植松 古川 ガブリエーラ 明	女	ブラジル
2			中村 ベアトリス 由希	女	
3			渡邊 福山 アラン 和也	男	
4		リーダー	砥綿 太田 マリアナ 絵里	女	
5	コロンビア福岡県人会	子弟	倉富 ニコラス	男	コロンビア
6		子弟	宮田 マーフィ ローラ 良美	女	
7		リーダー	ベハラノ クボヤマ ロレーナ	女	
8	アルゼンチン福岡県人会	子弟	ドナイヘル エレナ	女	アルゼンチン
9		リーダー	与那嶺 クラウディア ノエリ	女	
10	メキシコ福岡県人会	子弟	滝口 カプデベル フェルナンダ いずみ	女	メキシコ
11		子弟	飯田 ロドリゲス ひばり	女	
12		リーダー	田中 ペレス マリア グアダルペ	女	
13	パラグアイ福岡県人会	子弟	石崎 飛雄馬	男	パラグアイ
14		リーダー	松尾 ベニテス かおり	女	
15	ペルー福岡県人会	子弟	井上 藤森 ルシア	女	ペルー
16		リーダー	高島 市川 マリア エドゥアルダ	女	
17	ハワイ島福岡県人会	子弟	馬場 道賢	男	アメリカ
18		子弟	クック キャリー 美佐恵 シャオシュアン	女	
19		リーダー	クック ナラニ メイ シャック	女	
20	トロント福岡県人会	子弟	マック ライアン ハリー	男	カナダ
21		リーダー	合戸 祐	女	
22	バンクーバー福岡県人会	子弟	陳 クリスティーナ とも ジームン	女	

【福岡県移住者子弟留学生】

No	県人会名	氏名	性別	国名
1	ブラジル福岡県人会	砥綿 太田 ジュリア 留理	女	ブラジル
2	在ボリビア福岡県人会	林 直人 ダニエル	男	ボリビア
3	メキシコ福岡県人会	川島 麻耶	女	メキシコ
4	ペルー福岡県人会	古賀 金子 めぐみ アレハンドラ	女	ペルー
5	ハワイ福岡県人会	仲村 せり ちよ	女	アメリカ

「福岡県移住者子弟留学生とは」・・・

専門の知識と、日本、そして福岡県についての理解を深めるために、福岡県内の大学に1年間留学している海外福岡県人会の子弟。

【活動グループ】

参加者と子弟留学生で5つの活動グループを作り、プログラムに臨みました。

A	子弟：植松 古川 ガブリエーラ 明 中村 ベアトリス 由希 渡邊 福山 アラン 和也	リーダー：砥綿 太田 マリアナ 絵里 留 学 生：砥綿 太田 ジュリア 留理
B	子弟：倉富 ニコラス 宮田 マーフィ ローラ 良美 石崎 飛雄馬	リーダー：ベハラノ クボヤマ ロレーナ 松尾 ベニテス かおり 留 学 生：林 直人 ダニエル
C	子弟：ドナイヘル エレナ 井上 藤森 ルシア	リーダー：与那嶺 クラウディア ノエリ 高島 市川 マリア エドゥアルダ 留 学 生：古賀 金子 めぐみ アレハンドラ
D	子弟：滝口 カプデベル フェルナンダ いずみ 飯田 ロドリゲス ひばり	リーダー：田中 ペレス マリア グアダルペ 留 学 生：川島 麻耶
E	子弟：馬場 道賢 クック キャリー 美佐恵 シャオシュアン マック ライアン ハリー 陳 クリスティーナ とも ジームン	リーダー：クック ナラニ メイ シャック 合戸 祐 留 学 生：仲村 せり ちよ

全体プログラム日程

期 日	時 間	内 容	宿泊場所
1/14 (土)	終 日	入国	グローバル アリーナ
1/15 (日)	午 前	オリエンテーション	
	午 後	宗像市内小学生との交流	
1/16 (月)	午 前	太宰府天満宮見学	
	午 後	ららぽーと福岡見学 福岡県庁・福岡県議会表敬	
1/17 (火)	午 前	小学校交流準備	
	午 後	餅つき体験	
1/18 (水)	終 日	北九州市立小倉中央小学校との交流	
		北九州市内視察 (小倉城、リバーウォーク、イルミネーション、高塔山公園)	
1/19 (木)	終 日	宗像市立河東西小学校との交流	
		宗像大社見学	
1/20 (金)	午 前	福岡タワー見学、福岡市民防災センター見学	ホーム ステイ
		福岡県国際交流センター表敬	
	午 後	引率者会議	
		ホストファミリーとの対面式	
1/21 (土)	終 日	ホストファミリーとの交流	
1/22 (日)	午 前	ホストファミリーとの交流	グローバル アリーナ
	午 後	送別会	
1/23 (月)	午 前	恋ぼたる足湯	
	午 後	ハクハク明太子工場見学	
1/24 (火)	終 日	出国	

プログラム内容

<p>1月14日 (土)</p>	<p style="text-align: center;">◎入国</p> <p>8か国(ブラジル・パラグアイ・コロンビア・メキシコ・ペルー・アルゼンチン・アメリカ・カナダ)から子弟14名、青年リーダー8名が来福し、センター職員や家族会会員、親戚等が出迎えました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>1月15日 (日)</p>	<p style="text-align: center;">◎オリエンテーション</p> <p>オリエンテーションでは、まず、リーダーと県費留学生に、事業の趣旨やスケジュールの説明をしっかりと理解してもらい、その後、子どもたちも含めて全員でオリエンテーションを行いました。</p> <p>福岡県国際交流センター元永事務局長からの歓迎の挨拶、スタッフ紹介の後、プログラムの趣旨や参加の心得、スケジュールの説明に加えて、参加者が自己紹介をしました。また、日本語での挨拶の復習や日本でのマナー等についての説明も行い、参加者は真剣に学習していました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
	<p style="text-align: center;">◎宗像市内小学生との交流</p> <p>宗像市内に住む小学生と、折り紙やけん玉、テレビゲーム、お好み焼き作り等を一緒に行いながら交流しました。また、福岡教育大学の学生達が用意したゲームをしながら、みんなで楽しい時間を過ごしました。</p> <div style="display: grid; grid-template-columns: repeat(3, 1fr); gap: 10px;">      </div>

◎太宰府天満宮見学

この日から福岡県内視察が始まり、最初に太宰府天満宮を見学しました。グループごとに自由に散策し、参道で買い物をしたり、御神牛像の前で写真を撮ったり、おみくじを体験するなど母国とは異なる日本文化を楽しむ様子が見られました。



◎ららぽーと福岡見学

2022年4月にオープンしたばかりのショッピングセンターを見学しました。ららぽーと福岡のシンボルである実物大のガンダムを見て、あまりの大きさにとっても驚いている様子でした。ショッピングモール内では、各自買い物やゲームをして楽しみました。

1月16日
(月)



◎福岡県庁・福岡県議会表敬

福岡県庁・福岡県議会を表敬訪問し、参加者は緊張した面持ちでしたが、1人ずつ日本語で自己紹介をすることができました。副知事・副議長との歓談中には、積極的に質問する様子も見られました。



◎小学校交流準備

プログラム中に訪問する2か所の小学校で行う、母国についての紹介の準備をしました。子供達は、各自準備していた写真等を使って、リーダーや県費留学生のサポートを受けながら熱心に模造紙にまとめたり、日本語での発表の練習をしたりしました。



◎餅つき体験

今回、初めての冬開催ということで、日本の冬の風物詩の1つである餅つき体験をしました。スタッフのサポートを受けながら、2人1組になって実際に杵を使って餅をついたり、できた餅を丸めたりしました。ほとんどの参加者が初めての餅つき体験でしたが、全員上手につくことができました。ついた餅は、早速きなこ餅にして食べ、自分で丸めた餅は持ち帰りました。

1月17日
(火)



◎北九州市立小倉中央小学校との交流

6年生と交流しました。まず、体育館で歓迎を受け、みんなの前でそれぞれ準備した母国の紹介を日本語で行いました。その後、グループごとに分かれて、生徒に教えてもらいながら、日本の昔遊び(折り紙、けん玉、駒、墨絵、紙飛行機等)と一緒に体験しました。体験後は、一緒に給食を食べました。初めての給食でしたが、しっかり生徒達と一緒に手を合わせて「いただきます」「ごちそうさまでした」を言い、よく食べていました。様々な体験を通して日本の小学校の様子を知ることができました。



1月18日
(水)

◎北九州市内視察(小倉城、リバーウォーク、イルミネーション、高塔山公園)

小倉城見学では、展示物や体験コーナーで日本の歴史を学習しました。その後、リバーウォークで自由時間を過ごし、近くのイルミネーションを見学しました。夕食後には北九州市内を一望できる高塔山公園展望台で夜景を見学しました。この日は寒い1日でしたが、徒歩やバスでの移動の際は歌いながら楽しく過ごしました。



◎宗像市立河東西小学校との交流

まず、担当の先生から簡単に学校の説明をしてもらい、その後体育館に移動すると、サプライズで3年生全員による歌やリコーダー、ダンスで盛大な歓迎を受けました。その後、みんなで一緒にダンスをしたり、グループごとに分かれてそれぞれの教室に移動し、母国の紹介をしたり、一緒に折り紙をしたりして交流を深めました。給食後の昼休みには、運動場でドッジボールや鬼ごっこをして楽しみ、掃除では、生徒達に教えてもらいながらほうきで床を掃いたり、雑巾で拭いたり等、日本の学校ならではの体験をしました。今回は自分達より年下の学年との交流だったため、お兄さんお姉さんとしてしっかり面倒をみている場面も見受けられ、充実した交流になりました。



1月19日
(木)

◎宗像大社見学

世界文化遺産に登録されている宗像大社では、記念撮影後、自由に散策しました。本殿のみならず、第二宮・第三宮、高宮も見学し、日本の伝統的な神社のつくりや歴史を学ぶことができました。子供達には、運ごとに色の違う勾玉キーホルダーの入ったおみくじが人気で、みんな慎重に選んでひいていました。



◎福岡タワー、福岡市民防災センター

福岡タワーでは、展望フロアから福岡市内を見渡し、写真を撮ったり、展望フロアのあちこちにあるスタンプラリーを楽しんだりしながら、福岡市内の魅力を知ることができました。

福岡市民防災センターでは、火災時のVR体験や消火体験、地震の体験を通して、いざという時に、どのような行動をとればよいかを学習しました。

昼食後は、県費留学生に乗り方を教わりながら、今回のプログラム中で初めて公共交通機関(西鉄バス)を利用し、天神に向かいました。



1月20日
(金)

◎(公財)福岡県国際交流センター表敬

(公財)福岡県国際交流センターの福島専務理事を表敬訪問しました。1人ずつ、日本語で自己紹介をした後、歓談や記念品贈呈を行いました。歓談中には、福島専務理事からの「何が1番楽しかったか?」という問いかけに対し、子供達はそれぞれ楽しかったことを発表しました。



1月20日夜
～22日昼

◎ホストファミリーとの交流

<p>1月22日 (日)</p>	<p style="text-align: center;">◎送別会</p> <p>ホストファミリーと県家族会役員、県関係者等、64名が参加し、送別会を行いました。子弟とリーダー代表がそれぞれ挨拶をし、食事をしながらホストファミリーとの最後の時間を楽しみました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
----------------------	--

<p>1月23日 (月)</p>	<p style="text-align: center;">◎恋ぼたる足湯体験、昼食(大砲ラーメン)</p> <p>筑後地域の視察では、恋ぼたるで足湯体験をしました。温かい温泉に足をつけてくつろいだり、写真を撮ったりして楽しみました。物産館も併設されており、地元の名産を買う人もいました。</p> <p>昼食では、久留米名物の大砲ラーメンを食べました。子供達にも大変好評でスープまで全て完食する人や、お土産用に即席ラーメンを買う人もいました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
----------------------	--

<p>1月23日 (月)</p>	<p style="text-align: center;">◎ハクハク明太子工場見学</p> <p>ハクハク明太子工場では、明太子ご飯の食品サンプルを作ったり、実際に明太子が製造されている工場を見学したりしました。</p> <p>また、この日はペルーとコロンビア参加者の帰国日で、写真を撮ったり挨拶をしたりして別れを惜しみました。</p> <div style="display: grid; grid-template-columns: repeat(3, 1fr); gap: 10px;">      </div>
----------------------	--

◎帰国

11日間のプログラムを全員元気に終え、無事帰国しました！

1月24日
(火)



参加者の感想

アンケート抜粋

【子弟からの感想】

- ・他の学生と交流できて良かったです。新しい日本語を学べたことが嬉しかったです。観光、ホームステイ、学校に行くのが良かったです。
- ・買い物を楽しんだし、食べ物はおいしかったです。防災センターがとても面白かったです。
- ・1番思い出に残っていることは、たくさんの友達をつくることができたことです。また、1番印象に残っていることは、防災センターです。
- ・福岡でつくった友達とホストファミリー、河東西小での思い出と、友達とおやつを買ったことが思い出に残ります。友達といる時間が1番良かったです。
- ・ホームステイ先の人と一緒に福岡の様子を見ることができたので、とても良かったです。
- ・福岡タワーの見学が1番好きでした。
- ・ガンダムの大きさにびっくりしました。
- ・餅をつくことができて良かったです。また、違った形（きなこもち）でも食べることができて良かったです。
- ・太宰府天満宮について学び、マナーや動作を学びました。お守りやお土産を買える時間もあって良かったです。
- ・イルミネーションも高塔山公園の夜景もとてもきれいでした。
- ・とても楽しめました。福岡についてたくさん学ぶことができました。
- ・ペイペイドームで野球を観たり、見学がしたかったです。
- ・景色はとてもきれいだけど、寒かったです。

【リーダーからの感想】

- ・日本の小学生の日常生活、教室での学生の責任、チームワーク、礼儀の良さを知ることができた河東西小学校との交流は子供達とリーダーにとって素晴らしい体験だったと思います。
- ・地球の反対側から来ている私たちにとってとても素晴らしい体験でした。私たちの先祖の苦勞と努力のおかげで日本に来ることができたのでご先祖様に感謝しています。
- ・このプログラムは、子供達が新しい友達をつくる絶好の機会であり、県費留学生はこのプログラムに非常に協力的でした。
- ・私たちのルーツである福岡のことをより深く知ることができてとても嬉しいです。もっと文化について深く関わっているものをやりたかったです。
- ・全体的には、子供達の視野が広がって素晴らしいプログラムだと思います。自分も11歳の頃にこのようなプログラムがあれば良かったと思いました。
- ・福岡や日本の文化をもっと知ることができて心の底から感謝しています。センターや県費のみなさん、ありがとうございました。
- ・もっと和食を食べさせたほうがいいと思います。
- ・リーダーが子供達の世話をしに来ているのは承知の上ですが、親から一時離れている良い機会なので、リーダーからの干渉を減らして子供達の自立心を育む機会を増やすのも大切かなと思いました。

参加者レポート

子弟

Aグループ



ブラジル福岡県人会
植松 古川 ガブリエーラ 明
Uematsu Furukawa Gabriela Aki

「プログラムで得たこと・学んだこと」

このプログラムに参加できてとても楽しかったです。福岡福岡県副知事様にあいさつをさせていただき、緊張しましたが、とってもうれしかったです。福岡の文化を学んだり、もちつきを体験したり、福岡の有名な場所を訪問したりたくさんいい思い出ができました。小学校の生徒たちと楽しい時間を過ごして、みんなと遊んで、食べて、それからブラジルにない掃除の時間も体験してすばらしいと思いました。他国の子供たちと交流ができて、すてきな新しい友達ができました。ホストファミリーのお父さんとお母さんにも優しくしてもらって、いろいろな場所を案内してもらったり、いっぱいおいしいごちそういただいて、ほんとうに幸せな3日間でした。一生忘れられない思い出がいっぱいできました。

私は福岡が大好きになりました。もっと日本のことを知りたくなりました。そのためもっと日本語を勉強して、またいつか福岡に行きたいと思います。このプログラムに参加できて心から感謝しています。どうもありがとうございました。

～親御さんからのメッセージ～

このプログラムに参加させていただき、娘にとって重要な経験になりました。福岡の伝統を学び、様々な文化に触れあい、小学校の体験、日本の生徒との交流、他国の子供たちとの友情は、かけがえのない経験でした。娘にとって、この体験は、親元を離れ、初めての海外旅行でしたので責任感を持つことができたと思います。日本語で皆様の前で挨拶やブラジルについての発表、その色々なチャレンジと不安を自分で乗り越え、娘がより自信を持つようになって、成長したと感じました。

その他、自分のルーツである福岡を知ることができ、今まで気付いていなかったこのアイデンティティを意識することができたと思います。ホストファミリーの皆様にとっても親切にして頂いたお陰で、娘は日本人の優しさを深く感じ、憧れて帰ってきました。

これから、日本語の勉強を続けて、また日本に行きたいと言っています。帰国後、新しいお友達とメッセージ交換して楽しんでいきます。このプログラムのおかげで娘の視野が広がりました。

今回、娘にこの重要な機会を与えて下さった、福岡県人会の皆様 並びに 福岡県国際交流センターの皆様、ホストファミリーの皆様にご心から感謝申し上げます。

Aグループ



ブラジル福岡県人会
中村 ベアトリス 由希
Nakamura Beatriz Yuki

「プログラムで得たこと・学んだこと」

私の夢であった、日本へ行くことができました。そして、初めて、お父さん、お母さんと、長い間離れた旅行ができたことをすごく嬉しく思いました。この10日間、いろいろな所に行き、大勢の福岡県の皆様のお世話になり、素晴らしい経験をさせていただきました。

ブラジルで勉強した日本語で日本の皆さんと話ことができ、とても嬉しく思いました。想像していたよりも、もっと素晴らしい国だと、びっくりしました。太宰府天満宮、小倉城、福岡タワーなどの見学をさせていただき、県庁の皆様のお世話になり、小学校を見学させていただき、本当に楽しかったです。

ホームステイのおかげで、私が知らなかった、ひいおじいさんたちが生まれたところに行くことができ、親戚の皆様と会うことができ、とても嬉しく思いました。

他の国の人達ともお友達になり、これからも交流を続けたいと思います。もっと、もっと日本語を勉強して、いつかまた、必ず、福岡県に留学したいと思います。

～親御さんからのメッセージ～

日本へ行く前に、由希は少し日本語と日本の文化のことを勉強していましたが、実際に行ってみて、もっと深く身に付ける機会がありました。ホームステイは、親戚の家にお世話になって、ご先祖様、ひいおじいさんたちのふるさとのことを知ることができ、とても喜んで感動して、いろいろ話してくれました。色々なところや、人達のお世話になり、素晴らしい友達もでき、色々な体験もさせて頂き、大きく成長して、帰ってきました。

これからも一生懸命勉強に励んで、将来必ず、また福岡県に留学生として、いきたいと話しています。

Aグループ



ブラジル福岡県人会
渡邊 福山 アラン 和也
Watanabe Fukuyama Alan Kazuya

「プログラムで得たこと・学んだこと」

僕は子弟招へいに参加できたこと、とても嬉しく思っております。今まで一人で旅したことがなかったので心配でしたが、家族と離れていても一人で大丈夫だと思えるようになりました。

日本では初めての体験をたくさん経験する事が出来ました。餅つき、けん玉、お好み焼きの作り方も覚えしました。防災センターでは地震の怖さも知ることができました。博多は今回 2 度目でしたが、福岡タワーに初めて上がりました。博多が大きい街だと初めて分かりました。日本の工場も初めて見ました。お父さんは明太子が大好きなので明太子がどのように作られてるかお父さんに教えることが出来ました。他の国の友達もたくさん出来ました。そしていろいろな国の事も教えてもらい、日本語、英語、スペイン語の新しい言葉を覚えました。日本の小学校も見学でき、日本の子供たちはどんな場所で勉強しているのか、どんな給食を食べてるのか分かることが出来ました。小学校では掃除も手伝いました。僕のブラジルの学校でも掃除当番(係り)があるのでそれに似てました。小学校訪問は楽しかったです。日本の小学校に通いたいと思いました。また、みんなの前で恥ずかしくなく挨拶出来るようになりました。ブラジルに戻って通ってる小学校の日本語の授業では、日本でしたように自己紹介とブラジルのサッカーについてクラスメイトに発表できました。

また日本に勉強に行きたいと思います、ありがとうございました。

～親御さんからのメッセージ～

アランは親元を離れたことがなく一人っ子で自己中心的なところもありましたので、今回初めての一人旅に心配しましたが、思ったよりしっかりしていて成長して戻ってきたと感じました。限られたお小遣いの中、家族の事を考え、それぞれに合ったお守り、お土産等を買ってきてくれました。また、他人と話すのに恥ずかしがり屋でしたが少し積極的になった気がします。福島様がブラジルにいらした際の歓迎会の席でも日本の人の隣に座りたいと自分から言いました。行動力、判断力も少し高まった気がしますし、以前より一人で物事を考え行動するようになったと思います。英語も苦手でしたが、少し興味を持ち始めました。

今回、アランの 4 回目の日本行きとなりましたが、初めて日本に住みたいと口にするようになりました。子供だけではなく両親も子離れが少しできるようになりました。

今回はこのような貴重な機会を頂き本当にありがとうございます、これをきっかけにアランはますます日本への関心が高まると思います。

息子が本当にお世話になりました。

Bグループ



パラグアイ福岡県人会
石崎 飛雄馬
Ishizaki Hyuma

「プログラムで得たこと・学んだこと」

今回このプログラムに僕を参加させて頂いてありがとうございました。

僕が学んだことは：

1 日本の文化

- ・けん玉
- ・おりがみ
- ・お好み焼き作り

手先が器用になる物作りの文化を学びました。

2 学校

- ・パラグアイの学校にはない理科室や音楽室が見れました。
- ・パラグアイの学校とは違った体育館が見れました。
- ・パラグアイの学校にはない給食の時間がありました。

栄養のバランスが考えられた給食がとてもおいしかったです。また、教室や体育館がとても清潔でゴミが一つも落ちていないことに驚きました。

3 神社回り

- ・太宰府天満宮に行けたこと。
- ・宗像大社に行けたこと。

パラグアイでは経験できない神社回りはとても楽しかったです。おみくじを引いたり、学問の神様の太宰府天満宮でお守りを買ったりして、とてもいい思い出が出来ました。

4 福岡の街の観光

- ・福岡タワーから福岡の街を一望出来て嬉しかったです。
- ・ららぽーとで見たガンダムが大きすぎてびっくりしました。

5. ホームステイ先

- ・新幹線と電車に乗せて頂きました。
- ・回転寿司と豚骨ラーメンをご馳走して頂きました。
- ・博多駅の屋上を見学させて頂きました。
- ・ショッピングに連れて行って頂きました。

ホームステイ先の佐野さんがとても優しく親切に頂きました。ご自宅が純和風で、生活面でもとても良い体験をさせて頂きました。

福岡だけでなく、色々な国の研修生達から他の国の文化も学べました。英語圏の子達ともっとスムーズに会話が出来ようになるよう、英語の勉強をしたいと思います。

僕にとって、地球の裏側の日本でこんなに沢山の友達と出会えたことはとてもうれしいことでした。とても楽しかったです。貴重な経験をするチャンスを頂き、本当にありがとうございました。

～親御さんからのメッセージ～

福岡県国際交流センターの皆様、息子の飛雄馬が大変お世話になりました。今回このプログラムに参加させて頂けたことをとても感謝しております。

・息子は、以前は少し落ち着きがなく、遊ぶことばかりを考えて、事前準備や後片付けは人を頼って自分ではやろうとしませんでした。でも、福岡から帰ってきてからは自分のことは自分でする、ということを学んだようで、私が何も言わなくても必要なものと考えて事前準備をしたり、荷物の確認をしたり、几帳面になったと思います。

・以前は家にいて時間があるときはゲームやユーチューブを見ることにしか時間を使っていなかったのですが、福岡から帰って来て「興味のあることには挑戦してみたい！」という気持ちが芽生えて、絵を描くことに挑戦するようになりました。

・ハワイやアメリカと英語圏に友達が出来て、日本語やスペイン語だけでなく、英語も勉強したいという気持ちになり、英会話を始めました。

福岡に招待して頂き、11歳という若い年でとても視野が広がり、息子の夢が無限に広がったような気がします。

飛雄馬にこのような貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

B グループ



コロンビア福岡県人会
倉富 ニコラス
Kuratomi Nicolas

「プログラムで得たこと・学んだこと」

このプログラムのおかげで、私は以下のような、知らなかった日本の伝統をたくさん知ることができました。

- ・道路の左側を通行する。
- ・お寺に入るとき、門の真ん中を通らない。
- ・お寺の門の特定の部分を踏んではいけない。
- ・お寺に入る前に手を洗うこと。
- ・公共の場では大声を出してはいけない。

私はより深い日本文化を見せてもらいました。

また、日本の学校の時間割とコロンビアの時間割の違いも知りました。例えば、

- ・昼食は教室でとる。
- ・昼休みの間、子どもたちは決まった時間まで教室を出てはいけない。
- ・子どもたちは、他の子どもたちに給食を出すために、給食のテーブルを準備する。
- ・早めの下校。
- ・学校に入る前に靴を履き替える。

また、学校ではどんな遊びをしているのかも知ることができました。

ホームステイ体験を通して、一般的な家のつくりや、家にある代表的な機能を知ることができました。

- ・小さな庭
- ・とんがり屋根
- ・小さな部屋
- ・オープンキッチン

また、様々な文化に出会えたことが嬉しかったです。(カナダ、アメリカ、メキシコ、ペルー、ブラジル、パラグアイ、アルゼンチン)

また、このプログラム期間中は、親がいないので、より自律的な自分の姿を身につけることができ、自分で判断して行動できるようになり、この旅で自分の中で大きく進化したように感じています。

日本では、ビルやショッピングセンターと住宅を効率よく組み合わせて、より多くの建物を建てることができている。特に地下街は巨大で、すべて地下にあるため非常に驚きました。

また、お寺の重要性を楽しく学ぶことができました。

- ・知恵の寺、太宰府天満宮。
- ・開運の寺・宗像
- ・小倉城は、多くの重要な戦いが行われた城です。

特に小倉城は、なぜその場所が重要なのか、そこで起こったことをすべて知ることができ、とても興味深く、楽しいものでした。

このような機会を与えてくださった福岡県国際交流センターに感謝し、少しでもお役に立ち、また福岡に帰ってくることができればと思います。

～親御さんからのメッセージ～

ニコラスは旅行前、曾祖父母の文化や、特に日本のような先進国の技術について学ぶために、福岡への旅行をとても楽しみにしていました。この旅はニコラスの期待をはるかに超えるもので、彼は今、日本とコロンビアの文化の違いに驚いています。日本語の学習にも熱心で文法や特に漢字を勉強しています。また、自分の祖先やルーツにより誇りを持つようになりました。日本文化や日本語についてもっと学びたいという気持ちが強くなり、近いうちに日本に戻り、日本と福岡の違いやすばらしさを発見し続けたいという強い意志を持っています。私たちは、ニコラスにこのような機会を与えてくださったことに感謝します。この経験は、多くの興味を変え、文化の違いやさまざまな国の子どもたちと友情し、世界が広がってくれたと思います。ニコラスが曾祖父母の伝統を守り続けてくれることは、私たちにとって非常に喜ばしいことです。ありがとうございました。

Bグループ



コロンビア福岡県人会
宮田 マーフィ ローラ 良美
Miyata Murphy Lola Yoshimi

「プログラムで得たこと・学んだこと」

この旅行は私にとって人生で最高の経験でした。祖父と曾祖父母の出身地に行くことで、自分のルーツを誇りに思うようになりました。以前はあまり日本人的ではなかったし、日本を訪れることは不可能なことに感じていました。私はこのプログラム期間中、このような美しい国にいることをとても幸せに感じました。すべてがとてもきれいで整頓されていて、人々は私たちにとっても親切でした。他の国の子供たちもとてもかわいらしく、楽しい時間を過ごしました。いつかまたお会いできることを願って連絡を取り合っています。

一番楽しかったのは学校訪問で、特に河東西小学校は休み時間に子どもたちと一緒に遊ぶことができました。彼らは皆とても礼儀正しく、とても遊び好きでした。彼らとコミュニケーションをとるために、日本語を話したいと思っていました。

太宰府天満宮はとても古くて美しい場所なので、とても気に入りました。外のお土産屋さんでは美しいものがたくさん売られていて、私は世界一美味しいアイスクリーム、ミントチョコレートを食べました。

福岡タワーに行くのも大好きでした。景色は壮観でした。小倉城もとても気に入りました。

福岡市民防災センターでは、とても感動しました。火事や地震の写真がとても印象的でしたし、火事や地震の訓練もとても印象的でした。こんなに地震が来ても、建物や家が倒れずに生きていけるなんて、すごい！と思いました。

また、サウロ叔父さんに直接会ったことがなかったので、彼に会えてよかったです。サウロさんとサウロさんの奥さんは、私たちを買い物に連れて行ってくれたり、ラーメンを食べに連れていってくれたりして、私たちを大切にしてくれました。彼らはとても特別で親切でした！

ご先祖様のおかげで、日本のような素晴らしい文化に属することができて、とても光栄です。このネットワークを利用できることを願っています。このような機会を与えてくださった福岡県国際交流センターや福岡県人会に大変感謝しております。私が日本を知り、この国を身近に感じることは、私と私の両親にとって非常に重要でした。後で、戻ってそこにしばらく住むことができるという夢を実現したいと思っています。

～親御さんからのメッセージ～

この旅行は事前に計画されて何度か延期されてしまったので、ローラは旅行を遥かに見ました。日本に行く前は、(食べ物以外に)日本文化にあまり興味を持っていませんでしたが、一度日本に行ってしまうと、良い意味でとてもショックを受けて帰りたくなかったと言っていました。

日本は清潔さ、組織、安全など、すべてが完璧だったと言いました。楽園にいるような気分でした。ローラはまるで別の惑星に行っていたかのように、熱意を持って私たちに話にきました。

ローラは日本語を学びたいと思っています。それは、いつか日本へ戻ったときにもっとうまくコミュニケーションできるようにするため、または日本人の友達を作るためです。

私たちの娘にこの旅行を提供してくれた福岡県国際交流センターを始め、福岡県人会にも感謝します。彼女が私たちの祖先の土地に近づき、毎日より興味を持っていることは、彼女にとっても私たちにとっても大きな意味がありました。

Cグループ



アルゼンチン福岡県人会
ドナイヘル エレナ
Donajger Helena

「プログラムで得たこと・学んだこと」

先祖の地である福岡を知る機会を与えてくださった福岡県関係者、国際交流センター、アルゼンチン県人会に大変感謝しています。

餅つき、お寺巡り、小倉城、福岡タワー、福岡市民防災センター、そして何よりも小学校訪問など、私たちが行った活動はとても楽しかったです。生徒自身が自分の学校を掃除し、給食を提供する方法は、私の国ではないことで、私に多くの注目を与えました。男の子たちはとても愛情深く、けん玉を教えてくださいました。

また、この経験をさまざまな国の仲間のプログラムメンバーと共有し、日本の文化が私たちをどのように結びつけているかを発見することも非常に興味深いものでした。

私はこの街にとっても感銘を受けました。すべてがきれいで、通りや公共の場所では人々が静かにしています。

日本人が持っている技術は素晴らしいと思いました。

食べたことのない食べ物に挑戦しましたが、ラーメン、餅、アイスクリームがとても気に入りました。

ホストファミリーはとても親切に迎えてくれました。松田さんと妻のルミ子さんが美味しい料理を作ってくれたり、スーパーに連れて行ってくれたり、みんなでラーメンを食べたりしました。

祖母や曾祖母の家族にも会うことができました。自分のルーツを知るのはとても感動的でした。

敬意、時間厳守、清潔さなど、日本で多くのことを学ぶ、知ることができました。

日本の人々はとてもフレンドリーで、私たちをくつろがせてくれました。

私はこのプログラムと私が過ごした素晴らしい時間のおかげで、これからも日本語の勉強を続けることと、家族と文化を尊重するための励みになりました。

～親御さんからのメッセージ～

エレナは福岡への研修から驚いて戻ってきました。

奨学金の可能性を知り、日本を知ることにとっても興奮していました。

彼女の大きな変化に気付くのは時期尚早かもしれませんが、彼女は奨学金で行った活動で経験した規律に影響を受けています。

彼女は日本語の学習を続けることに非常に熱心で、友人や家族におみやげを配ったり、自分の経験を話したりすることをとても楽しんでます。

この経験が彼女を大きく成長させ、日本のルーツをより大切にしてくれたと思います。

2月1日、福岡生まれの曾祖母・樋口玲子さんを訪ねることができ、家族に会いに行ったこと、自分が生まれ、アルゼンチンに引っ越す前まで住んでいた家を見た話し、家族の墓地を訪れました。祖母はエレナの言葉にとっても感動していました。残念ながら2023年2月8日に曾祖母は亡くなりました。

この場を借りて、福岡県、国際交流センター、ホストファミリー、アルゼンチン福岡県人会に、娘を日本の文化に近づける素晴らしい機会を与えてくださったことに感謝します。

Cグループ



ペルー福岡県人会
井上 藤森 ルシア
Ynoue Fujimori Lucia

「プログラムで得たこと・学んだこと」

このプログラムでは、日本語を覚えたり、火事や地震でも生き残るための知識を学びました。そして福岡の家族に会えてとても嬉しかったです。温かく迎え入れてくれて、初めて会うのにも関わらずとても優しく接してくれました。このプログラムの中で楽しかったと思ったものの一つは、小学校の、ペルーとは習慣が異なる子供たちと一緒に過ごしたことです。彼らは自主性をもっていて、凄く優しくかったです。私はこのプログラムを通して様々なことを得ました。例えば、自主性を高めたり、自信を持ったり、自分のルーツを誇りに思うようになりました。また日本に行く機会があれば、ペルーの友達や家族に福岡にある沢山の美しいものや場所を見せてあげたいです。

～親御さんからのメッセージ～

親として、このような素晴らしいプログラムに参加できる機会をくださった福岡県に感謝しております。娘の井上ルシアは、このプログラムを通して成長し、自主性を高め、そして世界に向けての視野を広げたので、彼女にとってとても良い経験になりました。ルシアは曾祖父母の地を訪れたり、日本文化を経験したことで、自分のルーツを身近に感じ誇りに思えるようになったと思います。その一方で、様々な国の子供たちと交流したことで幅広い文化を知り、以前より社会的になったと感じます。最後に、福岡の家族はルシアに優しく接してくださったようで、彼らと会えたことは彼女にとって、とても感動的な経験だったようです。

Dグループ



メキシコ福岡県人会
滝口 カプデベル フェルナンダ いずみ
Takiguchi Capdevielle Fernanda Izumi

「プログラムで得たこと・学んだこと」

この経験で私は少し自立したと思います。家事とか宿題は自分でするようになったと思います。また、自分の家族の故郷について少し知って、先祖の事を尊重し、祝福し、その習慣と文化を続けることはとても大切であることを認識しました。他国の習慣の違う同年齢の子弟たちと交流して、皆何が共通しているかと考えた結論は、福岡県であることだと考えました。

今回から勉強を一生懸命続け、近い将来に改めて日本を訪問したいと決心しました。今回のようなプログラムは自分の成長の為であって、私たちの故郷に興味を持たせるとも重要だと思うようになりました。一生忘れられない経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

～親御さんからのメッセージ～

いずみは2019年に日本を訪問しましたが、その時初めて曾祖父母が住んでいた町を訪れ、親戚と出会い、とても感心しました。その後、メキシコに戻り、自分のルーツについて更に知りたいと、また行きたいという気持ちで張り切っていました。その際、改めて福岡を訪問できる機会があると聞いたら、彼女が是非、子弟招へいプログラムに参加したいという気持ちで応募しました。残念ながら、コロナ禍になり、一旦プログラムが中止になりましたが、再開になる間に日本語教室を提供していただき、それに参加し、ワクワクしながら日本語を学び始め、福岡へ行くチャンスを持ち続けました。プログラムが復活したこと、そして彼女が参加出来ることが決定されたことを知った時、大喜びでした。

今回のプログラムを終え、いずみが帰国してから彼女が自分のルーツにとっても誇りを持っています。そして、福岡にいる親戚に度々に連絡をしています。更に福岡県にある有名な大学に勉強をしに行きたいという希望も話し始めました。いずみの一番大きな変化は、日本で見たこととメキシコで日々見ることを対比するところが一番見えるのではないかと思います。日本料理、そして日本文化に惚れています。

今回のようなプログラムは私たちに、故郷及び先祖の事にとっても特別な絆を作れる機会を与えていただけなので、今後継続していただければ幸いです。いずみにとってずっと忘れられない、素晴らしい経験をさせて頂いた福岡県関係者の方々、そしてメキシコ福岡県人会の方々にお礼申し上げます。

Dグループ



メキシコ福岡県人会
飯田 ロドリゲス ひばり
Iida Rodriguez Hibari

「プログラムで得たこと・学んだこと」

去年 13 歳になった為、私はもう子弟招へいプログラムに参加できないと思っていました。メキシコ代表として参加が決まった時は嬉しさと共に責任を感じました。数年前に参加した兄や姉からプログラムの話を聞いていましたが、私が想像した事と全く違いました。一人一人の経験は違うからかもしれませんね。

空港に迎えに来ていただいた時「これは楽しいぞ！」とすぐに思いました。グローバルアリーナに着いてワクワク感が高まりすぐに皆とプログラムの行事に入りたいと思いました。日経ち色々な場所に連れて行ってもらって私は自分の国と違う多くの事に気付き始めました。訪問したどの場所も大好きになりました。庭や通りを大事にしている事がそこにいるだけで感じました。ショッピングモールは素晴らしくて、店で見たもの、全て買いたくなりました。

小学校を訪問した時、生徒達が小さい頃から規律良く自分たちで責任を持って色んな事をきちんとしていることを学びました。私にとってこれはとても楽しい、いい勉強になりました。生徒たちは私たちに対して親切でした。

このプログラムに参加できた事で更に私の中で先祖の習慣への好奇心を深め、自分のこれからの生き方やこれからのしたい事に影響を受けました。自分のルーツに関してそして県人会の為に出来る事が沢山あると思います。とても短い期間でした。時間が足りなかったです。もっと福岡にいたかったです。でも、きっと県費留学生としてまた行けると思います。

福岡県の皆さま、国際交流センターの皆さま、海外移住家族会の皆さまに心から感謝いたします。米田さん、私のアレルギーや食事などに気を使って下さってありがとうございます。最初からサポートしていただいたメキシコ福岡県人会と役員の皆さん、お父さん、お母さん、利明おじいちゃん、久留米の建夫おじさんと家族の皆さん本当にありがとうございます。一緒に参加したいずみちゃんとルピタさん、県費留学生のマヤさん、この素敵な体験ができてとても幸せです。そして、協力していただいた全ての皆さんにありがとうございます。私の心の一部が福岡に残りましたので、いつか必ず戻ります。

～親御さんからのメッセージ～

彼女にとって確実に素晴らしい経験でした。ひばりが責任感と自立感を体験できて日系家族の食事・文化や習慣に触れた事に私たち、彼女の両親が誇りを持ち喜んでます。

帰国後、彼女は日本語を学び続ける事に大きな関心を持ち、県費留学生として福岡に戻りたいと言う彼女の夢を実現できるように私たちは必要なことをしてあげたいと考えています。

学校では休みの間の宿題や課題を責任持って全部提出したと先生方は話していました。簡単では無かったですが努力して頑張って1人でやり遂げました。頑張りやなので、きっと県費留学生として福岡に戻れると思います。

福岡県の皆さま、国際交流センターの皆さま、海外移住家族界の皆様、体験入学に協力いただいた小学校の皆様方本当にありがとうございました。これからも子弟招へいプログラムを続けて子供達に日本語や日本の文化・習慣に興味を持ってもらい更に福岡県をもっと知ってほしいと願っております。

E グループ



トロント福岡県人会
マック ライアン ハリー
Mack Ryan Harry

「プログラムで得たこと・学んだこと」

日本を満喫しました！カナダとはすべて違いました！カナダと比べて、日常生活の多くの違いに気づきました。どこに行ってもとてもきれいです！手指消毒剤もいたるところにありました！

<学校>

- ・私が面白いと思ったことの1つは、私たちの学校では床を掃除しないことです。私たちはそれを行う用務員がいます。
- ・また、校内ではスリッパを履かず、室内履きであればランニングシューズなどを履いています。
- ・あたたかい給食を出してくれて、とてもすごいと思いました！公立学校では温かいお弁当を食べません！牛乳もカナダより濃厚でした！

<日本>

- ・トロントに比べて天気がよかった
- ・食べ物はとてもおいしかったです、私は福岡の食べ物を楽しみました！
- ・平和で美しい風景でした！
- ・お風呂は最高だった！男子は毎日行きました！！
- ・県費留学生が私たちを助けてくれてうれしかったです
- ・私は日本に戻って、県費留学生になりたいです！
- ・ホストファミリーにお好み焼きの作り方を習いました！
- ・生徒たちと一緒にけん玉を習いました
- ・世界中の男の子たちと楽しく遊びました！
- ・福岡タワーからの眺めを楽しみました
- ・神社巡りも楽しかったです！
- ・買い物を楽しみました
- ・たくさんの視察はとても楽しかったです！ツアーに連れて行って来てくれてありがとう!!!

<ホームステイ>

ホストファミリーとのホームステイは楽しかったです。彼らはとても歓迎してくれて、私たちはたくさんの楽しいことをしました。江口家は私を彼らの家族の一員のように感じさせてくれました！ホストファミリーと一緒にお好み焼きを作り、僕はお手伝いをしました。

<FIEF>

FIEF に感謝します！ FIEF は私が日本語や文化について学ぶのを助けてくれました！とても楽しかったです！たくさんの人に会えて、福岡のことをもっと知ることができました！また県費留学生として日本に来たいです！

～親御さんからのメッセージ～

ライアンはオンラインでの日本語と日本文化のレッスンをとても楽しんでいました。先生はとても実践的な語学レッスンを教えてくれました。ライアンは多くの日本語のフレーズを使用して帰国しました。例えば、食前（いただきます）と食後（ごちそうさまでした）。彼は日本の遺産に非常に興味を持っており、言語（口頭と文字）と文化についてももっと学びたいと思っています。ライアンは、トロントの日系カナダ人文化センターで空手と合気道を学び始めました。ライアンは日本料理に興味があり、日本にもっと旅行したり、世界の他の地域、特に彼の新しい友達に会うためにアメリカや南アメリカを見たりしたいと思っています。生徒たちはグループチャットで毎日連絡を取り合っており、写真や文化、学校などの詳細情報を共有しています。

この旅行は、ライアンの視野と好奇心を文化的および物理的な境界を超えて広げました。これは、私たちの多くが家で自粛生活をし、非常に孤立していると感じていた Covid のパンデミックの後だったので、特にエキサイティングです。

ホームステイのホストファミリーは、ライアンを家族に迎えてくれたことをとてもうれしく思いました。彼らは彼に料理を教え、彼を家に迎え入れました。彼らはまた、ライアンとホストファミリーの息子さんをバーチャル リアリティ ゲームと美味しいレストランでのディナーに連れて行ってくれました。彼らはとても親切で寛大で、多くのおみやげをライアンと一緒に家に送り、カナダの彼の家族と分けるように用意してくれました。

ライアンが彼のルーツについてさらに学び、国を観光し、彼の先祖の文化と言語について学べたことに感謝しています。彼はもっと学び、県費留学生として戻ってくると熱望しています。

短期滞在訪問プログラムをありがとうございました。ライアンにとって、日本語を学び、日本を訪れて文化とライフスタイルを体験することは、一生に一度の素晴らしい経験でした。FIEF のスタッフと青年リーダーの合戸メイの尽力と寛大さに心から感謝いたします。ライアンを大事にしてくれて、素晴らしいプログラムを企画してくれてありがとう。ライアンが彼のルーツについて学ぶこの機会を与えてくださったことに、私たちは非常に感謝しています。ライアンは素晴らしい経験をしました。

どうもありがとうございます！

E グループ



バンクーバー福岡県人会
陳 クリスティーナ とも ジームン
Chang Christina Tomo Jee-mun

「プログラムで得たこと・学んだこと」

日本はとても楽しかったです。新しいことを習うことができました。たくさんの人々が世界中から集まりました。私たちはまだワッツアップを介して通信しています。太宰府天満宮が学問の神様で知られるとは知りませんでした。カナダは主にキリスト教の国だから教会があります。日本は仏教の国だからお寺があります。福岡タワーの高さが234メートルだったとは知りませんでした。福岡タワーはとても高く細くて本当に素晴らしかったです。上昇するエレベーターに乗っていたとき、私はそれが落ちるのではと心配していました。福岡はあまおういちごで有名だということも知っていました。学校でプレゼンテーションをしたときに、他の国のことも知りました。カナダでは教室で食事をしないので、学校の子供たちがどのように昼食を準備するかを見るのは本当にすてきでした。これは私が学んだ大したことではありませんが、高速道路に行くのにお金がかかるとは知りませんでした。また、この経験が日本語を話す能力全体に役立ったと思います。言語に囲まれ、日本語を話さなければならない状況があったからだと思います。私はこの経験を本当に楽しんでおり、他の多くの人も楽しんでくれると思うので、このプログラムが非常に長く続くことを願っています。

～親御さんからのメッセージ～

福岡県国際交流センターの皆様には福岡にルーツがある海外の子供達の為に担い手育成事業を開催頂きありがとうございます。

クリスティーナは今回の旅行前に受けた参加者必修の日本語レッスンのおかげで日本語能力が高まり、他のプログラム参加予定者とも会うことができました。そのうち、ハワイから参加の 13 歳の女の子と知り合うこともできました。クリスティーナはこのプログラムで一生の思い出になる経験や世界各地に新しい友達ができるとは想像してなかったようです。これまでバンクーバー市内で日本語のレッスンは受けていましたが、実際には祖母と少し日本語会話ができる程度でした。日本でいろんなところを訪問して、初めての文化、歴史、風習、食べ物、建築物、景色、町など、本当にいろんな経験をしてきて、短い間にたくさんのことを学んだようです。この経験を通じて新たにいろんな人と知り合い、日本語も英語も話さない人たちとの交流の仕方も学んだようです。日本国内の訪問先で、クリスティーナは新しいことに挑戦することもありました。例えば「福岡市民防災センター」では、救助の方法を実際に体験することもあり、地震が起きた際にどうすれば良いか、火事が起きたらどのように消火をすれば良いかなどを学べた貴重な体験です。さらに、太宰府天満宮、J R 博多シティ、福岡タワーなど有名などころにも行きました。今回の旅行から帰ってすでに一ヶ月以上立ちましたが、クリスティーナは今でもその時の思い出を話題にします。彼女が他の参加者と今でも WhatsApp を使って連絡を取り合っているのもとても嬉しく思います。

今回のプログラム後、色々とクリスティーナの変化を感じますが、今回の経験で両親同伴でなくても旅行ができる自信がついてれば良いと思います。彼女は毎日朝 7 時半から夜の 11 時まで忙しくて、ホームシックを感じる暇もなかったと言っていました。以前よりずっと独立心がついて快活になったようです。今では祖母が来ると日本語をたくさん話すようになりました。クリスティーナは小さい時から旅行好きでしたが、旅行に行くことと学ぶことがいっぱいありますし、旅行中での学びは自然なものだと思います。彼女は両親である私たちに「今度はいつ日本に行くの？」と何度も聞いています。

本当に素晴らしいプログラムをありがとうございました。

Eグループ



ハワイ島福岡県人会
馬場 道賢
Baba Doken

「プログラムで得たこと・学んだこと」

ぼくは、今回のプログラムで、ブラジルやコロンビア、カナダなど他の国に住んでいる友達ができ、一番うれしくて、楽しいことでした。グローバルアリーナで、みんなで野球をしました。スペイン語圏に住んでいる友達とは、英語や日本語で話すことができました。友達とたくさん話すことができ、楽しかったです。

また、福岡滞在中に訪れた場所について、学ぶことができました。小倉城では、日本のお城の様子がよくわかりました。小倉の町の夜のライトショーがとてもきれいでした。太宰府天満宮も印象に残っています。天満宮の前にお店がたくさんあって、にぎわっていました。

日本の学校見学も楽しかったです。給食を自分で取りに行ったり、みんなで掃除したりすることは、ハワイの学校ではしないので、特別な経験ができました。給食は、日本の方がおいしいと思いました。外で遊ぶのは、ボールを自由に使えるハワイの学校の方が楽しいなと思いました。

帰る日に、雪が積もったことが、とてもうれしかったです。雪で遊ぶことができ、楽しかったです。風が強くて、天気が悪かったので、飛行機が飛ばずに、このまま福岡にしばらく居れたらいいなと思いましたが、残念ながら、予定通りにハワイに帰ることになりました。

自分でお金を管理して、自分の選択で使う経験が初めてだったので、それもとてもいい経験でした。いろいろと買い物できたのは、とても楽しかったです。自分でお金の使い方を考えるこの経験は、大人になった時に、役に立つと思います。

～親御さんからのメッセージ～

プログラムに参加したことで、自分がこれから何をしたいのか、いつまでに何をしなければいけないのかを以前よりもはっきりと伝えてくれるようになりました。グループ生活を通して、スケジュールの管理をすることを学んでくれたように思います。また、ハワイ以外からの参加者と友達になったことで、本人の世界感が広がったと思います。帰ってきて、世界地図を見ながら、友達はどこからどうやって福岡まで来たのかを教えてくださいました。一度は、友達に会いにそれぞれの場所を訪れてみたいと話していました。

家族とこれだけの期間、離れていることが初めてだったので、家族の大切さにも気づいてくれたようです。帰ってきて、兄妹に対して、さらに愛情を持って接しているように感じました。それと同時に、家族と離れていても、自分で過ごしていけることができるとも気づいてくれたように思います。将来、この経験が必ず大きな自信に繋がっていくと感じています。

Eグループ



ハワイ島福岡県人会
クック キャリー 美佐恵 シャオシュアン
Cook Caleigh Misae Xiaoxuan

「プログラムで得たこと・学んだこと」

この旅行でたくさんの素敵な友達ができました。旅行中、日本語の聞き取り練習をすることができ、聞き取り能力を強化することができました。また、毎日新しい単語を学んでいました。福岡とその歴史についてもっと知ることができたのはよかったです。みんなと楽しく過ごせました。この旅行の後、私はできる限り日本語を練習したいです。大学を卒業したら、交換留学生として日本で1年生活したいです。

～親御さんからのメッセージ～

キャリーは、このプログラムで大きく花開いたようです。彼女にとって初めての海外への一人旅で、ヒロからホノルルまで、他のハワイ代表団と会うために一人で移動しなければなりません。小学校6年生まで日本語学校に通っていましたが、この2年間は日本語を勉強していませんでした。このプログラムの結果、彼女は自分で日本語を勉強しようという意欲を持つようになりました。漢字の勉強にも意欲的だったので、小学校で習う常用漢字の本をあげました。キャリーはプログラム中にできた友人たちと連絡を取り合っており、いつか県費留学生として福岡に戻る計画を立てています。

参加者レポート

青年リーダー

A グループ



ブラジル福岡県人会
 砥綿 太田 マリアナ 絵里
 Towata Ota Mariana Eri

担い手育成事業に参加して、日本文化をもっと学び、新しい経験をすることができました。例えば餅つきをしたり、宗像大社や高塔山公園など新しい場所へ行きました。グローバルアリーナで宗像の学生、小学校の学生とも文化交流して、日本の学校はどんな感じなのか、どんなアクティビティやるか色々学びました。

また、太宰府天満宮や福岡市民防災センター、福岡タワー、小倉城など、県費留学生として行ったことある場所を再訪することもできました。プログラムのおかげで私は友人や家族会と出会い、新しい友人ができました。

私はこのプログラムに参加して、子供の面倒の見方を習いました。例えば、ホームシックにかかった子供をどう迎え入れるか、どう落ち着かせ、安心させてあげるか、日本での滞在を充実させるための最良の方法を学ばなければならなかったのです。

また、いかに責任を持たなければならないかを学びました。11歳の子供でも中々手伝いは必要でした。例えば買い物の際に、支払い、両替など、何かと手助けが必要です。

このプログラムに参加して、とても良いと思いました。

B グループ



パラグアイ福岡県人会
 松尾 ベニテス かおり
 Matsuo Benitez Kaori

この移住者の子孫を福岡に招待して頂けるプログラムには、我々子孫に日本文化を普及させ、沢山の活動を通して他では得られない特異性がありました。福岡での活動を通して、日本の文化が我々の中に浸透し、また同化したと思います。

このプログラムの中には、沢山の活動がありました。まずは、太宰府天満宮で礼拝体験、市内観光で見た古典建設、最先端の技術が生かされた街の作り、素晴らしいビルが並ぶ街並み。また、小学校訪問で得た日本の子供たちとの交流、餅つき、ホームステイを通して家族会の方々との出会いがありました。

私は、このプログラムでの経験から、人としての在り方を学ばせて頂きました。それは、時間を守ること、リスペクトすること、そして団体行動を通して一人一人の前進が社会の発展につながるということ。この経験は私にとって、とても尊いものでした。実際に福岡に行かせて頂いたことで自分の日本語が不十分であるということも自覚しました。まだまだ理解力や会話力にかけていると実感しました。この経験を生かして、もっと日本語を学ばなければと思われました。次にこのような機会があればぜひまた参加し、日本語力を伸ばしたいです。

私の目線ですが、たとえばハーフの子どもや青年の中には日本の文化に慣れていないことで消極的になってしまう子たちも見えました。だからこそ、コミュニティーが一丸となって伝統を守り、素晴らしい日本の文化を守っていく大切さを改めて考えさせられました。

私たちが日系人であることの意味を自覚し、日系人としてしっかりと道徳や倫理を守り、先祖の歴史を大切に生きていくべきだと思いました。

B グループ



コロンビア福岡県人会
ベハラノ クボヤマ ローレナ
Bejarano Kuboyama Lorena

このプログラムは、福岡県が文化と知識の交流を行うためにこの機会を作りました。そこでは、各国の代表者が日本の学校で小学生たちに自国について紹介し、私たちの国を知らせる良い機会でした。コロンビアは非常に多様な文化があります。私は、コロンビアについて聞いたことがなかった子供たちの驚いた顔を見ることができて嬉しく思いました。

だからこそ、このプログラムは、新しい世代にとっても素晴らしい機会であるし、すべてを捨て海外に移住して新しい生活を始めた先祖たちのことを知るのにもとても重要な機会だと思います。祖先が日本文化を守り、今の私たちは誇るべき多文化でもあります。

このプログラムは、私たちの起源に近づく経験ができることを可能にし、新しい世代を通じて絆を築くという目的を確実に達成しています。言語や伝統に親しみ、いつか日本に帰りたい、あるいは県人会の積極的なメンバーになりたいという意欲を高めています。

このプログラムでも、出身国から他国の日系人との友情と協力の絆を強化する場でもあり、テクノロジーを通じて、協力や知識を交換するためのグローバルネットワークを作成する機会も与えてくれます。

この機会に無限の感謝と、特に私の心に残っている学習と思い出を申し上げます。私の名だけでなく、これからの世代、そして祖先の名でも感謝したいです。福岡の皆様、そして代表の皆様、ありがとうございました。

C グループ



アルゼンチン福岡県人会
与那嶺 クラウディア ノエリ
Yonamine Claudia Noely

この研修で得た大きな反省点の一つは、県人会の中で私たちが果たす役割の重要性でした。つまり、私たち県人会のメンバーが福岡を知る機会を得た以上、その関係を維持するためには、その継続は、私たちの行動にかかっていることを肝に銘じて他の県会のメンバーにも興味を持たせなければならないということです。

しかし、言葉の壁は多くの人にとって大きな困難であり、その解決策を一緒に探していくべきだと考えています。

特に、学校との交流とホームステイの機会です。学校との交流では、同年代(あるいはそれ以下)の子どもたちが学校の中でどのように過ごしているかを知ることができ、また、福岡の子どもたちに、自分たちの同胞がどの国に何年も前に移住しているかを知ってもらう機会にもなります。また、多くの小学生にとって、自分が日系人であること、つまり、日本のルーツや先祖を持ちながら、全く異なる習慣を持つ他国で生まれたことを認識するきっかけになるのではないのでしょうか。

また、現地の家族と数日間過ごす機会も非常に充実していますが、ホストファミリーと子どもの双方が(言葉が通じないために)コミュニケーションをとる手段がない場合は、少しストレスになる場合もあります。ですから、ホストファミリーの代わりに通訳をしてくれる人がいるかどうか、とても重要だと考えています。

小倉城への旅行、お寺への訪問、餅つきなどのアクティビティも興味深いものでしたが、もう少し内容の説明をされていれば、より役に立ったのではないかと思います。

例えば、zoom によるオンライン日本語教室を活用して、お寺の重要性を説明したり、コインの投げ方や理由、おみくじとは何かなど、日本文化の中で大きな意味を持つ場所であることを踏まえて、そのような場所に関連することを説明したりすることです。

最後の提案ですが、各国のリターンに連続性を持たせるために、太鼓やおどりなどの芸術・文化活動を取り入れると面白いと思います。
このプログラムのおかげで、初めて福岡を訪れ、祖母や叔母の生まれた土地を知る機会を得たことにとっても感謝しています。また、福岡県がこのようなプログラムを通じてつながりを維持することに大きな関心と努力をしていることに感謝します。この経験を他の国の県人会子弟や青年リーダーと共有することで、さらに楽しい体験ができました。

C グループ



ペルー福岡県人会
高島 市川 マリア エドゥアルダ
Takashima Ichikawa Maria Eduarda

今回、自分のルーツを探りたく県人会担い手育成招へい事業に参加しましたが、このプログラムを通して得られたのはそれ以上のもので、子弟はもちろん、自分を含めたリーダーの方々も沢山学べたと思います。

例えば、小学校では、生徒の皆さんが自ら進んで給食の用意をしたり、校内を手分けして掃除したりと、日本の教育は勉強だけではなく、子供たちの自主性や協調性も育てているということを知りました。生徒の皆さんと一緒に給食の用意をしたり、校内を掃除したりするほか、休み時間や小学校が用意してくださったプログラムを通して、言語の壁がありながらもその輪の中に子弟の皆さんが溶け込んでいるように見えて、彼らにとっても、良い成長の機会だったと思います。ショッピングモールや飲食店などでは、店員の皆さんによる日本独自の礼儀正しさや、他人との丁寧な関わり方を学びました。ただ自分の仕事をこなすわけではなく、お客さんや周りの方々を最後まで気遣う精神がとて印象的でした。日本だけではなく、ペルーでもこのような他人を気遣う行動が広まれば、気持ちいい社会になるのかなと思いました。防災センターでは、ペルーでは味わえないリアルな訓練を通して日本の防災意識を強く感じました。火事になったとき、停電して煙が立ち込めるなか、恐怖心を抑えて出口に向かう訓練が特に現実味があって、避難訓練の大切さを改めて思い知らされました。子弟の皆さんも、グループで協力しあいながら出口を目指しており、将来緊急時にリーダーシップを発揮できるであろう素晴らしい経験だと思いました。近年ペルーでも火災や地震など様々な自然災害が発生しているので、周りの人たちも救えるような知識を得られてよかったと思います。

ホームステイでは、日系社会でも年々薄れてきている日本の一般家庭の習慣やマナー、そして礼儀を学びました。靴を脱ぎ、和室でこたつに入ってみかんとお茶を頂いたり、お布団を敷いて休んだり、日本文化を沢山経験しました。ホストファミリーの皆様と、福岡からペルーへの移住の話や、その移住者の家族や子孫の心境など、沢山お話しもし、双方の繋がりを身近に感じた文化交流ができたと思います。小倉城や明太子のハクハク博物館では、福岡の歴史や食文化など、知らないことばかりでとても興味深かったです。ペルーでは工場を実際に見学できる機会は滅多にありませんので、子弟の皆さんにとっても新しいことだらけだったと思います。博物館では、現代日本全体に普及していてペルーでも人気の食べ物の多くが福岡発祥だと知って驚きました。その中でも、久留米ラーメンが特においしかったです。自分の祖父母やそのご先祖様が福岡県久留米市出身だったので、久留米ラーメンが食べられてよかったです。グローバルアリーナでは、集団行動を通して、時間やマナーを守ったり、他人を気遣ったりなど、様々な面で協調性が育めたと思います。他の国の方々と同じスペースや時間を共有したことで、日本の文化はもちろん、アメリカ大陸の様々な国同士でも文化交流ができました。各国の状況や、その国の日系社会の活動、その方のご先祖様が福岡のどの地域出身なのかなど、沢山お話しがきけました。各国の福岡県人会のメンバーと繋がりができて、とても楽しかったです。

最後に、このプログラムで経験できた沢山のことや、このプログラムを通して知り合えた福岡の方々や様々な国の方々との出会いを大切に、ペルー福岡県人会と福岡県を繋ぐ架け橋として、これからも貢献できればと強く思いました。県人会担い手育成招へい事業に参加できる貴重な機会を頂き、感謝しております。ありがとうございました。

Dグループ



メキシコ福岡県人会
田中 ペレス マリア グアダルペ
Tanaka Perez Maria Guadalupe

私は、国際交流センター、福岡県、家族会に、このプログラムのリーダーとして参加する素晴らしい機会を与えていただいたことを感謝します。彼らのおもてなし、サポート、ガイダンスに感謝します。私は、飯田ひばりと滝口いずみのリーダーとして参加しました。福岡を初めて訪れましたが、ラテンアメリカの参加者はすべて、あらゆる面で非常によく援助されました。

私の参加で最も重要なことは、日本の生活、習慣、時間厳守、プログラムの活動、多くの驚き、案内付きの多くの場所(寺院、神社、博物館、防災センター、レストラン、ショッピングセンター、小学校など)を体験できたことです。

私たちは「グローバルアリーナ」という美しく広々とした快適な場所に宿泊しました。私たちは、日本語の勉強を続け、メキシコの県人会メンバーとして続け、家族にも広めたいと思っています。私たちのホームステイで受けたおもてなしと学び、久留米市の日本の家族の生活様式と習慣を知ることができ、とても素晴らしい体験でした。私たちはとても親切に迎えられ、久留米でラーメン、焼き鳥を食べ、イチゴ畑を訪れ、安心して直接食べることができました。

このプログラムは素晴らしいものであり、メキシコと福岡の関係を促進するための1つです。福岡のすべての人々が私たちを歓迎し、この素晴らしいプログラムで支援してくれたことに感謝します。

私の息子である田中洋志も 2018 年にこのプログラムに参加し、現在も日本語の勉強を続けています。彼は 2019 年に JICA による奨学金を受けて横浜に 2 回目の旅行をしました。この子供プログラムに参加する機会は、私の人生にポジティブな影響をいただきました。

Eグループ



トロント福岡県人会
合戸 祐
Godo Sachi

今回、福岡県人会担い手育成招へい事業に参加させて頂いて、最も得たことは子供たちの日本・福岡への興味だと感じます。日本・日系人の人口が少なく、日常生活で自分達のルーツに触れることがあまりない私たちは、福岡で多くの視察や交流をさせて頂いたことで、子供たちは特に視野が広がったと思います。

お寺や温泉、福岡の小学校で現地の子どもたちと折り紙や書道など、日本の伝統的な文化をはじめ、給食、学校の掃除の仕方など、母国では想像もつかない習慣を今回体験することができました。また、この事業に備えて、日本語を学んだことがない子どもたちも国際交流センターや母国の日本語授業に参加し、流暢に自己紹介や母国のプレゼンをすることができました。子どもたちにとって、こういった数々の初めての体験はかけがえのない思い出になったと思います。

現代の子供はソーシャルメディアに長けているため、名刺のメールアドレス交換から、帰国後、現在、多くのプラットフォームで子供たち同士でチャットを続けていると聞いています。福岡のルーツつながりからこういった国際的なネットワークを子供の時から持つことは貴重な財産だと思います。

私も以前県費留学生として一年間お世話になったため、ライアンも今回の事業の体験から、「県費留学生として福岡に戻りたい」と聞いた時はとても嬉しく思いました。この体験から、子供たちが国に帰った今、このようにこれからも福岡や県会にもっと関わっていけるよう頑張っていきたいと思っています。

このような素晴らしい機会を与えていただき福岡県に心から感謝いたします。

Eグループ



ハワイ島福岡県人会
クック ナラニ メイ シヤック
Cook Nalani Mae Shak

日本・福岡を体験する一生に一度の機会をいただき、ありがとうございました。11日間にわたり、私は食べ物、文化、歴史、言語、家族、他の移民の子孫について学び、感謝することができました。

私は日本の食べ物について理解を深めることができました。

- 1) 福岡で今までで一番おいしいイチゴを味わいました。あまおういちごは甘くてピリッとしていて、食感も最高です。
- 2) 宗像小学校の生徒と一緒に焼いたお好み焼きは驚くほど美味しく、帰国したら作り方を覚えようと思いました。これまでに2回作りました。
- 3) 朝食のお漬物が大好きで、食事の時にナフキンがないのが寂しいです。

私のホストファミリーは私を別府地獄に連れて行ってくれました。青と赤の池と岩の隙間から立ち上る白い硫黄の雲や新鮮なゆで卵の匂いを体験しました。ホストファミリーにとっても感謝しています。ゆで卵、ピザ、プリン、新鮮な野菜を温泉の蒸気で蒸し焼きにしたものがとてもおいしかったです。明礬温泉の共同温泉で体がピンクになるまで湯に浸かり、夢を実現しました。

リーダーとして、私は子供たちの手本となるべく、失敗を顧みず、日本語を話すように心がけました。ホストファミリーの家に帰ったら「ただいま」、バスの運転手さんには「ありがとうございます」、カフェテリアの店員さんや皿洗いさんには「いただきます」「ごちそうさまでした」など、できる限り挨拶をするようにしました。日本人はよく「えーと」と言うのが好きなんだと知りました。

河東西小学校の3年生は、ほとんどのアメリカの学校ではできないような日本の教育ができることを教えてくれました。150人の子どもたちが、体育館でたった2人の先生と30分間、歌やリコーダー演奏やダンスに集中し、取り組み、自制している姿を見て、私は涙を流しました。

最後になりましたが、私の最大の収穫は、若い参加者や付き添いの人たちと友情を築いたことです。いつか日本やハワイで再会する日まで、この友情が続くことを願っています。アルゼンチンのヌニ、パラグアイのカオリ、カナダのメイ、ボリビアのナオト、そして交流センターの王さんから聞いた移民の話には驚かされました。

このプログラムを開催していただき、本当にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。

参加者レポート

福岡県移住者子弟 県費留学生

Aグループ	
	<p>ブラジル福岡県人会 砥綿 太田 ジュリア 留理 Towata Ota Julia Luri</p>
<p>子弟招へいの間に新しい、特別な経験がありました。その一つが、日本の学校を訪問することでした。子弟が準備したプレゼンテーションと、日本の学校が準備したアクティビティは、ユニークな文化交流の場となりました。それに、日本の子供たちの自主性と責任感が、幼い頃から掃除や昼食の準備という学校のルーティンからどのように出てくるかを見るのは本当に素敵なことだと思いました。もう一つ印象的だったのは餅つきです。準備を生で見たのは初めてで、ゼロから作る機会もありました。</p> <p>この間、さまざまな国の子どもたちが友達になり、コミュニケーションがとれるようになるのを目の当たりにし、とても感動しました。また、日本に来て、自分たちのルーツを知るための活動に参加したことがとても良かったようで、県費留学生としてまた来たいと言ってくれる子もいることを知り、とても嬉しくなりました。この10日間は疲れましたが、忘れられないものになりました。そして、その期間をリーダーとして来てくれた姉と一緒に過ごしたことで、この経験はより良いものになりました。</p>	
Bグループ	
	<p>在ボリビア福岡県人会 林 直人 ダニエル Hayashi Naoto Daniel</p>
<p>14日に空港へみんなを迎えに行った時は正直緊張していました。男の子5人の面倒を見ないといけなかったのも、子供たちは僕になじんでくれるかどうか、通訳をちゃんとできるかどうかと思いながらこのプログラムが始まりました。</p> <p>でも彼らたちも緊張とワクワクの気持ちでいながら毎日いろんなことをやったり、福岡の観光スポットに行ったりするうちにみんなと仲良くなって楽しそうでした。</p> <p>僕たち県費もまだ行ってないところに行けて、日本文化に触れ、福岡の素晴らしさに驚き、自分たちもここにルーツがあるともう一度実感できました。</p> <p>通訳や面倒を見るのに必死であつという間に十日間が過ぎ、みんなが帰る時はさみしくなりましたが、帰国した後、「直人のように日本語を上手に話せるよう一生懸命勉強して県費として戻りたい」というメールがきたりして、この招へい事業に参加した甲斐がある、そして数年後にその成果が見れると思いつつ自分も県費留学生として参加できて感謝しています。とてもいい思い出と経験になりました。</p>	
Cグループ	
	<p>ペルー福岡県人会 古賀 金子 めぐみ アレハンドラ Koga Kaneko Megumi Alejandra</p>
<p>この事業は14日から24日まで行いました。今回の参加者がメキシコ、ブラジル、コロンビア、ペルー、アルゼンチン、パラグアイ、アメリカ、カナダから来ました。私たち県費留学生は、事業に参加している子ども達やリーダー達をサポートし、知識と交流を深める事が出来ました。この10日間は忙しかったけど楽しかったです。活動は楽しくて教育的で、子ども達が楽しめる面白い方法で福岡と日本文化に焦点を当てていました。</p> <p>際立った活動は、河東西小学校への訪問でした。子どもたちは学生たちと交流し、日本の学校に通うことを体験することができました。子どもたちは自分の国を紹介し、遊んで、食べて、教室を掃除しました。この事業では、餅つきや小学生との交流など、日本の別の側面を見る事ができ、参加出来て良かったです。</p>	

Dグループ



メキシコ福岡県人会
川島 麻耶
Kawashima Maya

今回は、初めて冬に行われた子弟招へい事業でした。そのため、子どもたちは日本の冬にしかできないものを体験することができたので、とても特別な事業だったと思いました。その一つは、餅つき体験でした。餅つきはお正月に行われるので、いい機会だと思いました。お餅は食べたことがある子供もいましたが、実際どのように作られているか知らなかったと言っていたので、彼らにはとてもいい勉強になったと思います。体力を使う作業なので、子供たちには大好評！みんな餅をつきたいと手を一生懸命挙げて、何回もついた子もいました。初体験であった青年リーダーや県費留学生もいて、年齢問わず勉強になり楽しい時間でした。

そのほか、子供たちが頑張っ、日本語で自分の国を日本の子供たちに紹介する姿に感動しました。みんな事前に準備して、日本語が喋られないこと関係なく、発音や文章の区切りを何回も練習していました。その上、発表当日でも、日本人の子供たちをより楽しませたい！との思いで、「ダンスを披露してもいい？」など、新しいアイデアをその場で取り組んだりしていた熱心な姿が素晴らしかったです。見習いました。

また、皆とても素直で優しく、オンライン授業で習った日本語を一生懸命使っていました。母語がスペイン語、ポルトガル語や英語と様々であるなか、みんな仲良しで、正にこれが異文化交流と感じました。私も子供たちと遊んだり、冗談言ったり、ふざけて「先生」・「お母さん・おばさん」と呼ばれたり、青年リーダーたちとたくさんお話し、毎日が楽しかったです。年齢関係なく大勢の友達ができました！最初は長く感じた10日間が後半に入ると、あっという間でした。このような事業に参加できたのは、県費留学生としてとても貴重な体験でした。こんなに小さい頃から故郷である福岡に関心をもってくれる子供たちが立派だと思いました。大きくなったら県費留学生として来日してもらいたいです。みなさんお疲れ様でした！

Eグループ



ハワイ福岡県人会
仲村 せり ちよ
Nakamura Seri Chiyo

このプログラムで、いろいろなことを習いました。子供達の世話になった間で、友達を作ること、人々と仲良くすることは簡単なことだと気づきました。子供達は違う国語を話すのに、よく仲良くなれて、毎日一緒に遊べました。そして、県人会達は子供達をこのプログラムに行かせることの大切さが分かりました。子供達は本当に、自分のルーツも文化も知りたいと気づきました。子供達はいつも分からない時、私に聞いて、なんでも習いたいと理解しました。

この経験で、通訳の練習もしました。通訳はすごく難しいと思いましたが、毎日通訳をしてから、意味を伝えることが少し簡単になりました。

2023.1.14~24

**Short Term Visit Program for
Young Descendants of Immigrants
from Fukuoka Prefecture**